

令和3年度 教育目標について

1 名古屋市学校教育の努力目標

「なかまと学び 夢を創る」

<令和3年度重点事項>

なかまとの対話を大切にし、ICTを活用して、主体的に学ぶ子どもの育成

- 「なかまなビジョン」に基づく互いに認め合う学級づくりと、なかまと学びを深める授業づくりを推進
- 子ども一人一人の進度や能力、関心に応じた個別最適化された学びの提供
- 実生活に生きてはたらき、各教科等の基本となることばの力の育成

自他を大切にし、人生をたくましく生きる力を備えた子どもの育成

- 自他の命を大切にし、自他の存在を尊重する態度を育てる教育の推進
- 社会的・職業的自立に向けて必要となる基盤となる資質・能力を身に付けるためのキャリア教育の充実
- 子どもの様々な悩みに対応し、たくましく生きる力を育むための、「なごや子ども応援委員会」との協働や、専門職、関係機関と連携した支援体制の充実
- 生涯を通じてすすんで運動に親しむための指導の充実

2 本校の教育目標

個性豊かで、思いやりと広い心をもつ児童の育成

<校 訓>

かしこく

やさしく

たくましく

<宝南の子>

自ら考える子

思いやりのある子

最後まで頑張る子

3 学校教育の努力点とその推進計画

(1) 研究主題

なかまと学びを深め合う子どもの育成

～振り返り活動を通して、本時の学びを深められる子どもの育成～

(2) 主題設定の理由

昨年度は、「主体的に学習に取り組む子どもの育成」を研究主題に設定して実践に取り組んできた。この「主体的に取り組む子ども」を「粘り強く学習に取り組み、課題の解決を目指す子ども」と具体化し、各学年で実践教科を設定して、実践に取り組んだ。

振り返り活動を通して子どもたちが意欲的に学習をすることができたり、学習に見通しをもてるようになったりすることが分かった。その反面、基礎・基本の学習の定着が不十分なため、本時の学習における課題の解決に至るまでの道筋の途中で意欲を失ってしまう姿が多く見られた。それは、自分の「できること」や「できないこと」が理解できておらず、自身がもつ課題の解決を図ろうとして学習に取り組めていないためだと考える。

そこで、「なかまと学びを深め合う子どもの育成」を研究主題に設定し、友だちとの意見交流や振り返り活動を通して、自分の「できること」や「できないこと」を理解させ、自身がもつ課

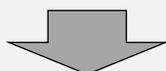
題の解決を図ろうとして学習に取り組む子どもの育成を目指していきたい。本時の学習を振り返る活動を行うことで、自分に必要な技能が明確になり、「これができればいいんだ」と意欲に繋げることができる考える。

(3) 研究推進について

目指す子どもの姿に迫るために、名古屋市が推奨する「なかまなビジョン」に基づいた授業の展開を行う。また、ICTを活用しつつ、次の視点に留意して学習過程や手だてを工夫しながら授業づくりに取り組んでいく。

【視点】

日々の授業で学んだことを振り返り、子ども一人一人が「何ができるようになったのか」や「本時のめあてをクリアするために何が足りなかったのか」について把握できるようにする。



(学習過程の可視化・振り返り活動の工夫)

- 子どもたち一人一人がもつ課題を明確にする。
- 朝の学習タイムなどを利用して、個人がもつ学習課題を解決する。

(課題解決能力の向上・成功体験の獲得)

上記の視点を重視し、以下のことに留意しながら研究を進める。なお、研究教科は「算数」で統一する。

- ① 学習のルールや話し方、聞き方、ノートの取り方など学習スキルを決め、共通理解を図る。
- ② ICTを活用し、子どもたちの興味・関心を高め、理解力向上につながる手だてを考える。
- ③ 子どもの実態を踏まえた上で、努力点推進年間計画を立てる。
- ④ 日常的に上記の視点を意識した授業を継続して進める。また、積極的に互いに授業を見合ったり、指導方法を話し合ったりすることで、指導技術を高めるようにする。
- ⑤ 前期および後期で、1つの単元や題材といったスパンで実践研究に取り組む。
- ⑥ 学年・努力点研究会を活用し、実践の検討や分析、計画の立案や見直しを行う。
- ⑦ 公開授業を学年毎に前期または後期で1本公開する。指導案(略案)を作成し、事前に検討を行い実施する。
 - ※ 事前・事後検討会は、低・中・高学年の部会に分かれて開催し、授業を練り上げる。必要に応じて、教科からの専門的な助言を仰げるようにする。
 - ※ けやき・あさひ組については、低学年部会とするが、学年が多岐に分かれるため、各部会からも検討が行えるようにする。
- ⑧ 中間報告では、前期の学年の実践の内容や進捗状況について紙面にて報告する。また、その内容は学年便り(11月号)にも掲載する。
- ⑨ 最終報告では、1年間の研究の内容・成果と課題を紙面にて報告する。また、その内容は学年便り(3月号)にも掲載する。今年度の手だての有効性や成果・課題については、「最終報告会」にて討議を行い、共有する。
- ⑩ 本研究の目標については、教職員だけでなく、保護者・子どもへも伝え、共有できるものとする。
- ⑪ 4月・中間・最終で、上記の視点についての変容を捉えるアンケートを実施する。また、名古屋市算数研究会の行う実態調査を4月と1月で行い、変容を見ていく。